

社長メッセージ

時代の変化に合わせ、ユーザー一人ひとりと深く長くつながり、必要とされる価値を提供し続けることで、新たな文化を生み出します。

｜ カシオが目指すサステナビリティ

カシオは「創造 貢献」という経営理念を大切に、それを体現することで発展を遂げてきた会社です。創造を通じて、世の中に新しい価値を提供し、新たな生活様式や文化を生み出すことで、社会に貢献する。その原点は、自分たちの発明によって、人々の生活を豊かにしたいという志です。設立当時、世界初の小型純電気式計算機を開発した際も、提供した真の価値は、簡単に速く計算ができることではなく、「計算をする」という行為を手軽かつ身近にしたことだと言えます。



個人用電卓、耐衝撃腕時計、発売当時最薄のデジタルカメラなど、カシオにはさまざまな「初」がありますが、いずれも「誰もがいつでも計算できる」「過酷な環境でも正確な時間が分かる」「ポケットに入れて常に撮影を楽しめる」など、使用シーンや対象ユーザーを広げ、計算、時間の把握、撮影などに、新たな価値を生み出した製品です。

そして、重要なのは、その価値を新たな文化として定着させ、人々の生活や社会に貢献していくことです。関数電卓の例で言えば、長年、各国の教育省・学校と授業を共同で開発してきた結果、推奨教材として、毎年主に海外の新高校一年生およそ2300万人の教育を支えています。このサイクルを生み出したことで、考える力を養うという数学教育に寄与できているのです。

このように世の中に新しい価値を提供し、新たな生活様式や文化を生み出すことを通じて、ユーザー一人ひとりの役に立ち続けることが、自社と社会の双方の発展を目指す「カシオのサステナビリティ」の姿です。

ESGの分野についても、単に外部からの要請に応えるだけでは不十分です。「貢献のための創造」を第一義とし、その実現に不可欠な本質的課題を抽出するからこそ、環境や社会的課題の解決、人材育成、労働環境整備などの取組みが有効に機能していくものと考えます。

｜ ガバナンス改革と経営体制の強化

変化する時代の要請に対応し、新たな価値を提供し続けて行くためには、経営基盤の強化が重要です。

経営執行体制は2021年4月から、全社最適な意思決定を可能とする3Cx0（CEO、CHRO、CFO）体制を導入するとともに、現場が裁量と責任を持って自律的に事業運営を行う、「事業軸」と「機能軸」のマトリクス型経営を採り入れました。

一方、迅速な意思決定や経営監督機能を担う取締役会においては、2019年6月に社外取締役の選任基準を見直し、取締役の人数を削減するとともに、企業経営をはじめ各分野で豊富な経験・知識を有するボードメンバーに刷新して以来、長期的な視座に基づく活発な議論が行われており、ガバナンス改革の成果が表れていると認識しています。今後も取締役会の実効性評価を踏まえ、継続的なガバナンスの強化を図って行きます。

｜ サステナビリティ重要課題への取り組み

現下のサステナビリティの重要な課題の一つは、脱炭素社会の実現に向けた取り組みであると考えます。カシオの温室効果ガス削減目標は、SBTiから科学的根拠に基づく目標として認定されています。この目標達成に向けて、2021年7月に国内主要拠点（5カ所）の使用電力を再生可能エネルギーに切替えたほか、バリューチェーン全体の温室効果ガスの削減にも取り組んでいます。

また、2030年までに国際社会が実現を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」を、事業活動を通じて実現していくことも不可欠と考えており、2019年度には事業毎にサステナビリティ目標として、カシオが貢献していくSDGsゴールを明確にしました。現在では、アフターコロナにおける事業計画に基づき、改めて達成すべきSDGsゴールをターゲットベースで再確認するとともに、KPIの設定に取り組んでいます。

また、こうした一連の施策は、取締役会と執行機能の間に位置付けられ、機能軸・事業軸の各責任者を主なメンバーとする「サステナビリティ委員会」において十分に議論を行い、取締役会に諮ることで経営の課題として意思決定の上、推進しています。

｜ 「貢献のための創造」を支える風土づくり

これまでカシオは、目指すサステナビリティの実現に向け、様々なESGの取り組みを推進してきましたが、長期的視点の重要性を痛感しています。長期的に社会に貢献し続けていくためには、これを実践できる企業の風土づくりが要諦になると考えています。このためにカシオではパーパスドリブンな経営を目指し、従業員との対話を重ねることで、従業員が当事者として、カシオの未来をともに描き実行していく組織風土の実現を目指しています。これを実現することが、従業員がイキイキと働き、適材適所で最大のパフォーマンスを発揮することにつながり、ひいてはユーザー一人ひとりに提供する価値を最大化することにつながると、私は確信しています。

｜ ステークホルダーとともに

企業価値の向上に向けては、戦略の方向性やその進捗の共有、更には外部視点の取り入れなど、ステークホルダーとの対話が重要と考えています。私も率先して、株主・投資家の皆様との対話に参加するようにしていますが、多様な示唆・気づきを与えていただき、経営にとって不可欠なものとなっています。

これからもカシオは、ステークホルダーとの対話を活かしつつ、「貢献のための創造」を実現し、社会から必要とされる企業として、存在価値を高めていきます。どうぞカシオの未来にご期待ください。

代表取締役 社長 CEO 榎尾 和宏